

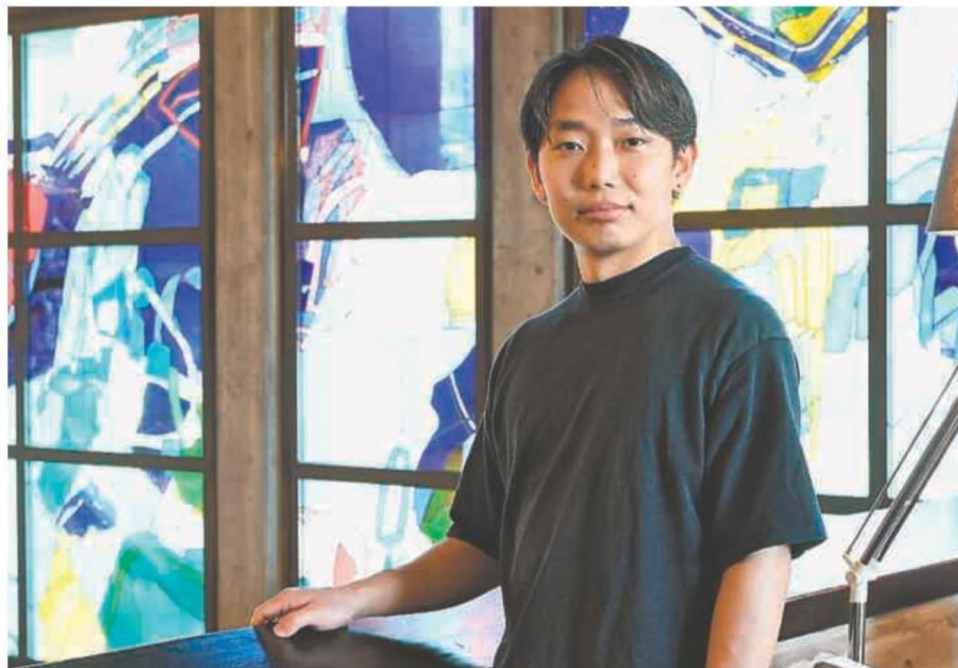
「憧れ」の曲演奏楽しみ



10月31日開幕の「青い海と森の音楽祭」まで3カ月余り。2回目となる今年の音楽祭では11月6日に初めて弘前市民会館でオーケストラコンサートが開かれ、チェリストの佐藤晴真がハイドンのチェロ協奏曲第2番でソロを披露する。「憧れ」と語る同曲や音楽祭への思いを聞いた。

(聞き手・秋村有香)

佐藤晴真インタビュー



「音楽祭のほか、青森での喫茶店巡りも楽しみたい」と話す佐藤晴真。6月下旬、弘前市民会館

― 昨年の音楽祭を振り返って。
「アウトリーチ（出前演奏会）では本当に音楽の良さを実感できた。通常の演奏会だけでは味わえない。社会貢献という面でも自分を含めて出演者が音楽家としての意義を感じていた。趣味としての音楽というより、もっと深い意味で音楽を通じて素晴らしい瞬間を共有できた」
― 今回もアウトリーチから始まり、各種演奏会と多くの出演機会がある。
「昨年も演奏曲は多かったが、楽しいの一言。何がそうさせているのか分からないけど本当に雰囲気が良い。その音楽祭に初回からスタメンで出られるのは誇りだしうれしい」
― 他の出演者から受ける影響は。

弘前オケコン チェロ協奏曲第2番でソロ

〈ヤマト・はるま 1998年、名古屋市出身。2019年、ミュンヘン国際音楽コンクールチェロ部門において日本人として初めて優勝。18年にはルトスワフスキ国際チェロ・コンクール第1位および特別賞を受賞。第83回日本音楽コンクールチェロ部門第1位および徳永賞・黒柳賞など受賞多数。これまで国内外の主要オーケストラと共演し、リサイタル、室内楽でも好評を得ている〉

「みんな大人で優しい。特に（コンサートマスターの）矢部達哉さんとはアウトリーチも一緒に、音楽家はこうあるべきという理念を話せたことは自分にとって糧になる時間だった。音楽祭の意味が深く理解できたし、責任感が芽生えた瞬間でもあった」
― 弘前で披露するハイドンのチェロ協奏曲第2番について。
「演奏が決まったのは昨年の音楽祭のバス移動中。矢部さんに呼ばれて『2番。まだ400日以上あるからできるよね』と。自分は1番（ハイドンのチェロ協奏曲第1番）を演奏する機会が圧倒的に多いけど、実は2番も大好き。チェリストは1番のアクティブなタイプか2番のエレガントなタイプに二分されると思う。完全に自分は1番だったけど2番にはすごく憧れがあったので、音楽祭で弾けるのは楽しみ」
― 第2番の聴きどころは。
「エレガントなのにちょっとクレイジー。解き放たれた、枠に収まらない自由なエレガントさがある。楽譜は何百年も前から一緒だけど、どう自由自在に生かすかは難しいところでもあり、演奏家としては醍醐味でもある」
― 今回の音楽祭に向けて。
「世界で活躍している演奏家が青森に集まって音楽を届けるといふのは、演奏家一人一人にとって学びになるし意義深い。音楽が分かる分らないでなく、何か心に残る瞬間を見つけてくれたらうれしい。僕たちも楽しみにしています」